

# DIMPLASS

ディンプラス

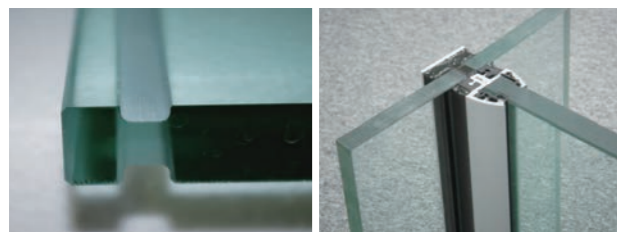
フロートガラスリブの表面に施した溝加工にアルミホルダーを機械的に接合し、フェイスガラスを支持するガラススクリーン構法です。



東京国立博物館 正門プラザ (東京都台東区)  
設計: 株式会社安井建築設計事務所 様

フロートガラスリブの表面に溝加工を施し、アルミホルダーを溝加工部に機械的に接合し、フェイスガラスを支持するガラスファサードです。

従来のガラススクリーン構法のような構造シールによる接着構法とは異なり、ビルの中高層階にもご使用いただけます。(特許登録済み)

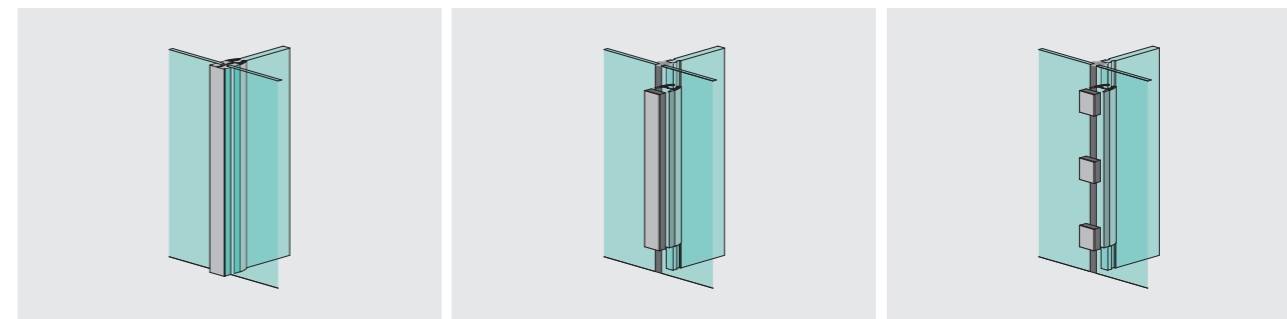


溝加工部詳細 (FL19)

支持部断面



## バリエーション



全辺支持型

上下フリー型

外部部分支持型

## ガラス

ガラス製品 P.36

対応ガラス



フェイスガラス構成

単板	FL、HS、PT+飛散防止フィルム
単板	FL+FL、HS+HS、PT+PT
合わせ	FL+A12+FL、FL (Low-E) +A12+FL、HS+A12+HS、HS (Low-E) +A12+HS

リブガラス構成

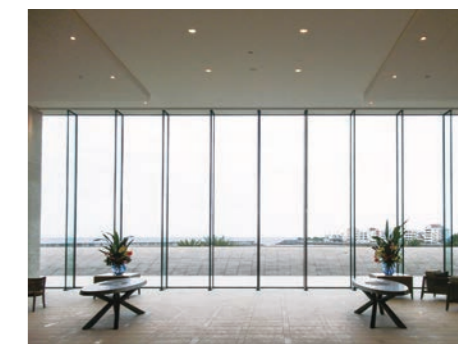
単板	FL19
合わせ	FL15+FL15、FL19+FL19、FL12+FL12

※ガラス構成は、設計条件、ガラスサイズに応じて構造計算やFEM(有限要素法)解析により決定します。

溝加工可能寸法

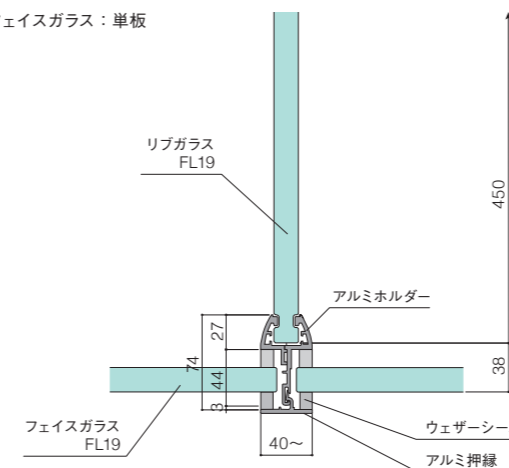
最小	200×400 (溝加工辺) mm	最大	1500×8000 (溝加工辺) mm
----	-------------------	----	---------------------

※上記寸法を超える場合は、ご相談ください。

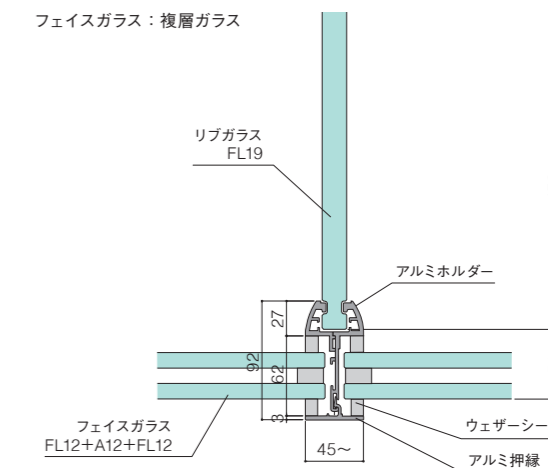


## 納まり参考例

フェイスガラス：単板



フェイスガラス：複層ガラス



※参考図の検討条件はP=2400N/m<sup>2</sup>、GH=5000mm、GW=1500mmです。